

## 情報学科目群

情報通信技術は現在の社会のいたるところで利用されており、人工知能などの新たな情報通信技術は、今後、社会をさらに大きく変えていく可能性も秘めています。そのため、これらの技術やそれに関わる社会的課題を正しく理解することは現在の社会を生きるものにとってたいへん重要になっています。また、これらの情報通信技術を自ら活用するための知識も、現在の社会における知的活動において重要なものとなっています。さらには、情報という概念は、本来、現在のデジタル情報通信機器に特有のものではなく、われわれが生きていく以上、必ず日々関わるものであり、そのような情報という概念の正しい理解は、いつの時代においても重要な教養の一つです。全学共通科目の情報学科目群は、これらについて学ぶための科目を提供するものです。

なお、現在、高等学校においては、教科「情報」として「情報Ⅰ」が必修となつていますが、「情報Ⅰ」で扱われている内容に続く科目は、京都大学の全学共通科目では主に情報学科目群と自然科学科目群の中のデータ科学の科目として提供されていますので、科目の選択にあたってはそれらの全体を理解し、かつ、所属する学部・学科の履修要覧等に記載されている卒業要件等の条件も理解した上で、選択するようにしてください。

情報学科目群の科目は、科目選択の目安となるよう「基礎」と「各論」に分類されています。

基礎に分類される科目としては以下の3科目を設定しています。

### 情報基礎（クラス指定科目ならびに全学向）

この科目は情報科学・情報技術についての教養科目です。大学卒業後、社会に貢献していく上での素養となるような、情報科学や情報通信技術の基礎をなす理論・概念（例えば、情報とは何か計算とは何かに関する理論や、情報の表現方法に関する諸概念）や、現時点で社会に大きな影響を与えている新技術（例えば暗号や人工知能）に関する知識を学びます。

### 情報基礎演習（クラス指定科目ならびに全学向）

この科目は本学のすべての学生に求められる一定の情報利活用能力を身に着けるための科目です。すべての学生にとって、学士課程における学修や社会的活動、並びに卒業後に大学院や社会における知的活動に際して必要となる情報探索、情報分析、および情報の表現・視覚化などの情報利活用の能力（これらを情報リテラシーと呼ぶ）と、その前提となる情報機器の操作能力（これらをコンピュータリテラシーと呼ぶ）を修得することを目的としています。また、現代社会において情報の収集や発信を行う際を守るべき社会的ルールに関する知識についても併せて修得します。

### 情報と社会（全学向）

この科目は情報と社会の関わりについて学ぶ教養科目です。現代社会における情報と情報技術の利用に関連する諸問題に関する知識を獲得し、また、それらについて自ら考える機会を持ちます。

基礎に分類されるこれらの3科目については英語で講義を行う科目も提供されています。

また、情報基礎、情報基礎演習については、学部、学科などを単位にクラス指定して開講されるものと、全学向として開講されるものがあります。クラス指定されている学部・学科に所属する学生の皆さんは、卒業に必要な単位の要件などを確認して、適切な科目を履修するようにしてください。なお、情報を専門として学ぶ工学部情報学科の学生向けには情報基礎演習に代えて「情報基礎実践」が開講されています。

各論に分類される科目では先の「基礎」科目に関連した内容について特定的话题を取り上げてより深く学ぶ科目や、様々な分野で実際に利用されるプログラミングやコンピュータ・グラフィックスなどを演習・実習形式で学ぶ科目を提供しています。一部の「各論」科目では英語で講義を行う科目も提供されています。「基礎」科目を履修後に、学んだ内容の中でさらに深く学びたいものについては、対応する「各論」科目を履修することを推奨します。また、入学時に既に「基礎」科目で学ぶ内容について一定程度修得済である場合には、早期に「各論」科目の履修へと進む、あるいは、「基礎」科目と並行して「各論」科目を履修することも考えられます。ただし、「基礎」科目で扱う内容には高等学校の教科「情報」と共通するものも多くあるものの、高等学校での学習内容と比べて、より深く学び直すことになるものが多いことには注意してください。

さらに、前述のように自然科学科目群の中のデータ科学の科目にも、情報学科目群と関連する科目があります。そのため、情報学科目群の「基礎」科目とデータ科学の中の「統計入門」などの基礎的な科目を並行して履修し、その後、情報学科目群やデータ科学の中の応用的な科目へと進むという進め方も考えられます。あるいは、データ科学の応用的な科目を学ぶ際に、必要となるプログラミングの知識などを学ぶために情報学科目群のプログラミング演習などの科目を先行して、あるいは、並行して履修するという考え方も考えられます。また、この手引きのデータ科目についての説明のページには、履修登録単位数や時間割の制約により希望するデータ科学の科目が履修できないという人のための自習教材の情報も記載されています。いずれにしても、科目の選択にあたっては前述のように情報学科目群とデータ科学の科目の全体像と、所属する学部・学科で指定されている条件等を理解した上で選択するようにしてください。